# 仕様書

半導体・情報インフラ部

１．件名

サイバーセキュリティにかかる国内外の動向調査

２．目的

「経済安全保障重要技術育成プログラム／先進的サイバー防御機能・分析能力強化」(以下「本プロジェクト」) において、サイバー空間の状況把握力や防御力の向上に資する技術や、セキュアなデータ流通を支える暗号関連技術等を開発し、その成果を社会実装につなげることにより、我が国のサイバー領域における状況把握力・防御力を飛躍的に向上させる活動を行っている。

本調査事業では、日本国内及び米国・欧州等におけるサイバーセキュリティにかかる方針や取り組み等を包括的に調査・分析、整理する。これにより本プロジェクトの研究開発項目の方向性、成果イメージ、スピード感を測る目安とするとともに、円滑な社会実装につなげることを目的とする。

３．内容

以下の（１）～（６）について実施すること。各調査内容を本プロジェクトが進める「国内外動向調査ワーキンググループ(WG)」にて提案し、WG 内での議論の結果を踏まえて改善すること。議論の過程で要請された事項に関する調査を報告書として提出し、効果的な議論を行えるようにすること。改善・調査の実施にあたっては、適時本プロジェクトのプログラムディレクター/サブプログラムディレクター(以後 PD/SPD)と NEDO に相談の上行うこと。なお、当該調査事業は本プロジェクトの研究開発項目①②③に沿ったものとする。

（１）海外における制度、標準、規制、技術などの動向に関する調査

主要国（米国、欧州、その他の地域）の最新技術（例:AI による脅威検知、ゼロトラスト）の導入状況、特筆すべき動き（３件以上）について調査する。対象関連機関の有識者への対面でのヒアリング及び国内外で開催される学会、シンポジウム等のイベントでの発表内容及びその参加者等への対面でのヒアリング、文献調査等により実施すること。

（２）米欧主要機関の動向に関する調査

米国 NIST、米国 MITRE、欧州 ENISA の現在取組中の主要な活動について、背景と達成状況、参画組織（企業等)、キーパーソンについて調査すること。

（３）国内外におけるサイバー攻撃と防御技術の動向に関する調査

ChatGPT に代表される生成 AI の公開時期の前後における、サイバー攻撃手法や攻撃対象、被害状況、防御手法の変化及び、今後 AI の進化により想定される脅威とそれに対する海外主要国の対策や方針について調査すること。現在一般的に利用されている RSA 暗号に代表される、主に計算量によりその安全性を担保している暗号に対する、量子計算機技術の進化の現状とそれがもたらす脅威と、その脅威に対して国内及び海外主要国（米国、欧州、アジア、その他の地域）で行われている対策活動について調査すること。

（４）調査結果の分析と取りまとめ

（１）（２）（３）の調査結果を取りまとめ、結果の分析から海外のステークホルダーとの連携に関す

る活動案をまとめ、提言すること。

（5）WG 運営業務

WG の日程調整、開催、議事録の作成など、WG の事務局及び運営全般を行うこと。また、運営に係る費用全般の支払いを行うこと。同 WG の参加メンバは、産官学の有識者(PD/SPD/技術推進委員会の委員)及び実施者/可能な範囲での本プロジェクトの想定ユーザ企業等を想定。WG は調査事業の期間中、1～2 回開催を想定。

また、WG に関連する資料の立案・作成を、本プロジェクトの PD/SPD/NEDO 及び本プロジェクト関係者と協議の上行うこと。資料作成にあたっては、本プロジェクトについての知見の有無にかかわらず多くの方に理解できるよう努めること。

（6）その他

NEDO からの要請があった場合は、協議の上、可能な限り反映すること。当該調査の実施により知り得た知見・個人情報は、当該調査のためだけに利用することとし、調査終了後は速やかに情報を破棄すること。

4．調査期間

NEDO が指定する日から 2026 年 3 月 31 日（火）まで

5．報告書

提出期限：調査報告書　2026 年 3 月 31 日（火）

提出方法：NEDO プロジェクトマネジメントシステムによる提出

記載内容：「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って、作成の上、提出のこと。

https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html

6．報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。特に委託期間中においては、11 月下旬頃に中間報告をお願いする可能性がある。

以上